



佐土原ロータリークラブ週報



会 長：佐藤 高元 **幹 事**：太田 忍
副 会 長：梶田與之助 **会報委員長**：林 厚雄
会 計：村岡 博
事 務 局：〒880-0211 宮崎市佐土原町下田島 11703-18
 TEL：0985-62-7833 FAX：0985-62-7877
 携帯：090-9596-6114 吉野由里子
例 会 日：毎週水曜日
例 会 場：ハイビスカス ゴルフクラブ
 TEL：0985-73-0109

1月31日プログラム予定・・・フォーラム
 2月7日プログラム予定・・・会員卓話「正岡文都会員」

第961回 平成19年1月24日(水)

- 本日のプログラム
- 1. 点 鐘
 - 2. ロータリーソング
「我らの生業」
 - 3. 会長の時間
 - 4. 幹事報告
 - 5. 書初め指導
 - 6. 点 鐘

今の福島県会津は、明治維新で有名なところです。徳川幕府を助け最後まで官軍に抵抗した会津藩の白虎隊は余りにも有名な話として語り継がれています。16歳から17歳の少年達で編成された年若い白虎隊は敗走し飯盛山で全員切腹するのですが、その会津藩には江戸時代「日新館」という藩の学校がありました。勿論白虎隊の少年達もこの藩校で教育を受けたのです。日新館には「十の掟」と言うのがあって、是を絶対に守ることが入校の条件でした。その条件と言うのは、

- 一つ 年長者の言うことに背いてはなりません。
 - 二つ 年長者にはお辞儀をしなければなりません。
 - 三つ うそを言うことはなりません。
 - 四つ 卑怯なことをしてはなりません。
 - 五つ 弱いものをいじめてはなりません。
- ・・・などです。

そして最後に「ならぬものは、ならぬのです。」と締めくくられています。要するに、「問答無用」いけないことはいけないと言うわけです。今の世の中はどちらかと言うと理屈が先行します。子供の躾一つについても、論理的に説明がされないと「おしつけ」とか「強制」とかが批判を受けることとなります。本当に大事なこと、人の道として踏み外してはならないことは、幼いうちにしっかりと身につけさせておくべきであり、そのためには説明など不要と言う教育のあり方を失ってしまっているのでしょうか。

・皆さんに二つ目の課題として提案いたします。今、教育改革・改善については、さまざまな意見や提案がなされ、(裏へ続きます)

第960回の記録 平成19年1月17日
 ★会長の時間 佐藤 高元 君
 皆さん今日は。この前、最近の事件や事故について雑談をしているとき、教育のことが問題になりました。教育の問題が、今日ほど真剣に、しかも多種多様に論議されているのも子供を取り巻く事故・事件への関心が深いからだろうと思います。
 論議を聞きながらいつも納得の行かないことがあります。それは「責任のなすりあい」ということです。
 ある人は子供が悪いと言い、親は学校の先生が悪いと言い、先生は家庭教育が悪いと言います。そしてお互いに都合が悪くなると社会が悪い、政治、行政が悪いと言うのです。この誰も責任を感じていない人任せの風潮が教育の改革・改善をあいまいにしてきた一つではないかと思っています。第一の問題点として提案いたします。
 話が少し講談調になって申し訳ありませんが、

国会でも論議され重要な緊急な課題として方策が検討されています。その中で最も注目されるのは何と言っても総理大臣・安部晋三氏の考えです。安部総理大臣は教育改革のための戦略を著書に次のような事を書いています。

- (1) まず、第一番に義務教育は何を目標にするのかを、改めてハッキリさせなければならないとしています。したがって、今後教育基本法や学校教育法などが見直されることとなります。
- (2) 喫緊の課題は学力向上にあるとして、学習指導要領を見直して、国語・算数・理科の基礎学力を徹底させることを強調しています。
- (3) 教員の質の確保。そのために、教員免許更新制度の導入も一つの方法ではないかと提案しています。
- (4) 学校運営の改革として、校長の権限の拡大・保護者の参加・地元住民が参加できるようにすること。
- (5) 幼児教育の改革として、幼稚園と保育所を一体とした「子供の園」の導入。などについて、詳しく考えが述べられています。

さらに、教育は、学校だけで全う出来るものではない。何よりも大切なのは家庭である。だからモラルの回復には、時間がかかる。ある世代に成果が現れたとしても、その世代が親になりその世代が育つころにならなければ社会のモラルの回復には、大変な時間が掛かる事を重視しています。そして、家族の大切さ、人間関係の大切さ、お金の豊かさとは違った心の豊かさを回復させたいと言う気持ちを訴えています。

「最後に、日本の欠点を語ることに生きがいを求めるのではなく、日本の明日のために何をなすべきかを語り合おうではないか。」と締めくくっています。安部総理大臣の教育の改革・改善に対する並々ならぬ決意と意欲は十分に理解することが出来ます。近頃は、権利は主張するが義務意識がおろそかであると言われていきます。両方がうまくかみ合った状態が最も好ましいのですが、むしろ奉仕の心と実践が教育の再生欠かせない要因ではないでしょうか。三つ目の課題として提案いたします。

★ 会員卓話

佐藤 純一 君

入会されて初めての卓話の時間です。自分の略歴と、銀行の話をしていただきました。



★ 今月のセレモニー・右から堀口君・村岡君



誕生お祝い
堀口英秋君
村岡 博君
正岡文郁君



婦人誕生お祝い
外山久美子さん

1月に咲く花「水仙」

～ MEMO ～

.....

.....

.....

.....

.....

出席状況 第 957 回 平成 18 年 12 月 20 日

会員数	30名	欠席者数	10名
出席者数	20名	メイクアップ	4名
出席率	66.0%	修正出席率	80.0%

言動はこれに照らしてから

■ 四つのテスト

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるかどうか